



ヤミ休暇、怠慢職員、ヤミの本給水増し...法律以上の厚遇はらない!

# 今こそ問われる、高砂市職員の働き方

3月議会は2月24日から。職員の給与体系についても議論予定。



あくまでイメージですが、労働基準法や民間給与水準の平均に比べ、公務員労働は「浮き上がって」しまっていると思います。

**決算委員会で判明した事実**

- ・市職員全員に6日間の「ヤミ休暇」(名目は自己研修、田村市長になってから増加)
- ・全く働かない、市役所をたびたび無断欠席の職員を2年間処分もせずに放置、あるところか毎年昇給(出勤簿はまとめてハンコ押し)
- ・県からの出向職員に手当分の本給水増し(ありもしない管理職の時間外支給分、市以上の調整手当などで30代で900万以上)
- ・市民病院の働かない医者(年収1200万以上)を消防署に出向、勤務実態は「三分の一」

増加する低所得者と非正規雇用  
景気回復だそうです。企業は非正規雇用を増やし、人件費を節約することでパブル期並の収益を上げています。しかし、民間実感では「好景気」とはほど遠いものがあります。厚生労働省などより以下のデータが出ています。

1)4割の世帯が300万円以下の所得! 150万円以下も3割近くに。10年間で300万円以下は約三割から四割へ、150万円以下はほぼ倍増。2)非正規雇用が労働者の30%以上、若者の失業率は8.6%(全体4.5%の約2倍)

公務員は胸を張れる仕事で「(事実上)給与水準が高い」「サービス残業がない」「有給がちゃんと取れる」「身分保障がある」というのが公務員の状況です。(善し悪しは別として)民間の正規社員ですら考えられない境遇に公務員は置かれています。非正規社員の状況とはさらに大きく開きがあります。

私は「だから、そこで満足して身分が保障された職場で精一杯頑張りたい」と思っています。

高砂市の実態は違います。ただでさえ有利な労働条件か

ら、少しでも給与を上げるためにヤミ休暇を作ったり、特殊勤務手当を作っています。働かない仲間をかばうような、もたれ合い構造もあります。そんな働き方では市民はいつまでも「公務員バッシング」をやめないでしょう。

**井奥の提言 ▶ こうすべき**

厚遇手当や残業を見直し、個人単位の年収圧縮を(一人約50万程度)「勤務評定」以前に「明らかにひどい職員ベスト10」への厳しい処分をヤミ休暇は即時廃止。年間20日の有給休暇で十分。

団塊の世代退職で浮いた人件費は、雇用対策費へ(政策集に詳細記載)

千葉からのPCB持ち込みで県は市に連絡をせず。このままでは高砂市はPCBとゴミの街になります

## 子育て世代 応援提言



## ファミリーサポート事業 07年開始 充実した実施に向けて準備を

この事業は、市が設立・運営し、「育児」の援助を受けたい人(利用会員)と、行いたい人(協力会員)とが、お互いに会員となって、子育て中の人や働く家庭を地域で支えあうシ

ステムです。いわば有償ボランティアですので、利用会員から協力会員へ1時間あたり700円程度を支払うことになります。市は事務局にアドバイザーを置いて会員同士の調整をすることになります。

すでに県下で加古川市など半分以上の自治体の実施しています。

私は一般質問で取り上げ、「さ来年(07年)度から実施」という答弁を引き出しました。その後、先進市である加古川市や広島県福山市を視察したところ、良い事業にするポイントは「優秀なスタッフ確保とPR」のようです。07年度実施に向けて、来年(06年)度できちんと準備と広報ができるように3月議会で取り上げます。

**イベント情報** まちづくり協議会は、毎月第三土曜日午後2時~中央公民館を定例会とします  
まちづくり連続市政勉強会 3月18日(土) 主なテーマ 公務員労働、タクシーチケット